

2018

法政大学大学院経営学研究科

法政ビジネススクール





よい循環づくりをめざす法政ビジネススクール

法政大学大学院経営学研究科長
金 容度

実務の世界で感じている限界を、より普遍的な学問の世界を体験することによって突破したいと思っている方

企業現場で働く中で、ご自分の将来の成長を考えながら、もやもやした気持ちを抱いている方

ビジネスの世界をより広く、かつ、深く見る洞察力を鍛えたいと思っている方

理系の知識や経験はもっているが、経営学の知識の不足を強く感じている方

こうした方々の成長をアカデミックの領域で手伝うために、1992年4月にスタートしたのが法政ビジネススクール(経営学専攻・夜間修士課程)です。日本の私立大学の中では最も設立が早かった社会人向け夜間大学院として、法政ビジネススクールは、教員、在學生、卒業生の間に良い循環を作り出すことを目指して四半世紀にわたり、努力してきました。

法政ビジネススクールでは、企業家養成、国際経営、人材・組織マネジメント、マーケティング、アカウンティング・ファイナンスの5コースからなるコース制を導入しており、それぞれのコースに特色のある授業を用意しています。もちろん、所属コースの科目に限らず、多様な専門科目の授業も吸収できます。さらに、経営学、会計学、経済学、統計学などの基礎科目も学べるように工夫されています。こうした知の旅を続ける中で、今までなかった知的体験をすることが多いと思います。

授業形式も多様です。理論と鋭い知見をもってビジネス世界の現実を分析する能力を徹底的に鍛える授業もあれば、教員と受講者、受講者間の白熱するディスカッションによって展開される授業もあります。学問の流れを理解し、現実の問題がその知的な流れのどこに位置するかを把握し、そこから、問題解決の方法を多面的に探る授業も用意されています。

もう一つ特色ある形式の授業が各コースごとに行われるワークショップ授業です。ワークショップでは、企業の第1線で活躍される多様なゲストスピーカーをお招きして、文字では表現できない現場の生の情報、最新の企業経営動向、最先端の事業動向をお聞きし、それを材料に活発な質疑応答を教員がナビゲートします。単なる講演会と異なり、現実と理論、実務と学問の往復運動を図る「集団インタビュー」といえます。この「集団インタビュー」を繰り返す中で、多様な職場に勤めている在學生

同士の多様な考え方を交わすことができ、視野が広がるとともに、一緒に学ぶ仲間としての連帯感も生まれています。

修士論文を執筆する機会も設けられています。修士1年の後半にはコースごとに希望する論文テーマに沿って論文の指導教員が決まり、修士2年の1年間、論文執筆に取り組みます。1年間の論文執筆のプロセスで、少人数教育の強みが最大限生かされています。指導教員は丁寧な指導を心がけており、教員と学生間に濃密なコミュニケーションが行われています。論文指導ゼミの中には多様な試みがみられ、修士論文と関連する専門領域の文献、あるいは古典を輪読する修士論文ゼミもあります。執筆の中間段階で、各コースの教員と在學生全員が参加する中間報告会が設けられ、個別の指導教員だけでなく、より多くの教員、学生からのアドバイスをすることができます。最終的に提出された修士論文の中で、高く評価された論文は、「成果集」という製本冊子として公表されます。

多くの卒業生は、在学中の修士論文の準備・執筆のプロセスを振り返って、より鋭く現場をみる目がそこで鍛えられたといっています。実務だけでは得られない能力を得たともいっています。実務で育った人が学問的な成果に挑戦するという容易でない作業によって、思考力、構想力、調査能力、分析力など総合的な知的能力が間違いなく高まると思います。

社会人として仕事を続けながら、高度職業人に必要な能力と知見を身につけて法政ビジネススクールを卒業した方は900人を超えています。5つのコースごとの卒業生間のつながり、コース横断的なネットワークづくりも行われつつあります。

大学院を中心にして、在學生と卒業生間の循環も表れています。卒業生がワークショップゲストスピーカーとして登壇して、生の情報や経験談を後輩達と共有するケースがあり、また、卒業生の中に、教員になって在學生に知的な還元を行う例もあります。

私の例でいいますと、私の修士論文指導を受けて卒業した方と在學生と一緒に、経営学や経済学の古典と一緒に読んでおります。卒業しても、大変楽しく、在學生や教員と一緒に、知的刺激を共有して、一緒に賢くなっています。

法政ビジネススクールが目指す好循環の仲間に加わり、主役になり続けたい方の入学を強く期待しています。



近能 善範 教授

企業家になるための洞察力と決断力を徹底的に鍛える

企業家養成コースが開講されたのは1992年であり、企業家の養成を目指すコースとしてはわが国初めてのものです。文字通り、企業家養成のイノベーターだと言えます。本コースでは、創業を志す人はもちろん、企業内で新たな取り組みに挑戦しようとする人、既存企業の事業承継を志す人、企業家の支援に携わる人など、幅広い「企業家」を想定し、その洞察力と決断力を徹底的に鍛えられるように、アカデミックの側からお手伝いをしています。

企業家が直面する状況は常に新しく、将来は常に不確実です。その中で決断を下すためには、表面的な現象ではなく、事柄の本質を理解しなければならず、そのための洞察力が欠かせません。企業家養成コースにおいては、こうした能力を養うためのカリキュラムを用意しています。まずは、企業家養成コース「ワークショップ」が挙げられます。このワークショップは、企業家本人に接して、本人の口から語られる経験を聴くと共に、対話を通じて、語られる言葉の行間を参加者が読み込む場です。毎回の授業時に第一線で活躍している企業家をお招きして、企業や事業を起こされた経緯や動機、そのときの苦労や問題点、現在直面している経営上の課題と対応などについての議論を深めます。単なる講演会やサクセスストーリーの紹介とは異なり、企業家の生のお話を聞きながら、参加者

が企業家の立場に自分の身を置いて企業家の本質を考える双方向授業です。1年に約10名の企業家の事例をディスカッションしますので、2年間の在学中に20名前後の企業家事例を「追体験」することができます。また、企業家活動、企業家史、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論など、企業家に欠かせない科目も用意されています。他に、マーケティング論、組織行動論、人的資源管理論、経営組織論、財務会計論、管理会計論など、他のコースの多様な科目を履修することも可能です。さらには、1年間にわたって担当教員の集中的な指導を受けながら修士論文を作成することによって、思考力と構想力を高める機会も設けられています。

毎年、本コースには多様な経歴の社会人が集まってきましたが、一方で、全員が現場での強い問題意識を持っているという共通点もあります。そのため、教員を交えてアカデミックの世界との対話を常に行うだけでなく、在学生同士が多様なトピックについて多様な観点から議論し続けることが可能です。こうして育まれていく、授業を離れてもさまざまな交流を通じて繋がるネットワークは、卒業後も大切な財産となることでしょう。



●教員紹介および担当科目 (2017年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
稲垣 京輔 教授	企業家活動と組織変革に関する研究	企業家活動、企業家養成演習
金 容度 教授	企業システムの歴史の国際比較	企業間関係論、企業家養成演習
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション	イノベーション・マネジメント概論、企業家養成演習、経営学原理
二階堂行宣 准教授	日本経営史・日本経済史	企業家史
福島 英史 教授	企業戦略と技術革新に関する研究	経営学基礎、企業家養成演習
吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究	ワークショップ、企業家養成演習

●MBA修了生・現役生の声

「自分を磨き上げる、充実した2年間」

入社以来、事業部門・販売部門それぞれ約10年ずつ所属した後、管理部門に異動となりました。そこで求められるスキルと視座が自分には欠けていることに気づき、それらを早いスピードで身に付けるべくHBSの門を叩きました。

HBSでの2年間で得たものは多くありますが、その中から3つを挙げると、1つ目はもちろんビジネススキルの習得です。MBAですから、戦略論や組織論はもちろん、それらを補完し関係する科目もみっちり学べます。10名程度の少人数でのディスカッションは、教授のファシリテーションもすばらしく、毎回盛り上がりました。

2つ目は、深く鋭く考察することです。ビジネスでは、与えられた時間はたいへん短く、その中で効率よく判断し伝えていくことが多いのですが、HBSでは授業の課題と発表、さらには修士論文の執筆に徹底的に時間をかけ、考えを深掘りしていきました。先行研究に習い、さまざまなケーススタディから学び、自ら

清末 大樹 (2017年3月修了)
TOTO株式会社



の考えを整理しては壊すことを幾度となく繰り返すことで、事例や事象を徹底的に考え抜いて、より多く、より深くの洞察を得ようとする癖がつかまりました。

3つ目は、成長を志す仲間達です。同級生・同窓生は全員何かしら課題を感じて入学してきています。年齢も仕事も立場も異なる方々と侃侃諤諤の議論をすることで、腹を割って話ができる多くの仲間ができました。また、この「仲間」には、ご指導いただいた教授の皆様も含めてよいと思います。HBSは、少人数制ならではの教授と学生の距離の近さがあり、そのため授業も修士論文指導も熱心かつ充実したものとなりました。

仕事・家庭そして大学院を鼎立させるのは時に大変なこともあります。しかしHBSでの2年間で、大変さを補って余りある充実した時間と多くの成果を手に入れることができ、達成感と感謝でいっぱいです。



李 瑞雪 教授

グローバル化が進むなかでの企業経営を考える

国際経営コースは、「多国籍企業の“戦略と組織”を研究するコース」という設置コンセプトをイメージして作りあげられました。コースの設置以来、幅広い分野で活躍する修了生を輩出してきましたが、そのなかで、当コースでの研究を土台として海外現地法人などに赴任し、グローバルに活躍する修了生が多数出てくるようになりました。修了した後もOB/OG組織「HIB Club」を通して情報交換がなされ、修了生同士の結びつきは広がりを見せています。

企業を取り巻く環境は、当コースが設置された当時とは大きく変化しています。そのうちの1つが、経済のグローバル化です。ヒト・モノ・カネそして情報が国境という壁を越えて自由に移動するようになりました。グローバル化の進展により、規模や業種にかかわらず、今や海外との結びつきに無縁でいられる企業はないと言ってもよいでしょう。この意味で、国際経営を学ぶ重要性はますます高まりつつあると言えます。個人のレベルでもグローバル化の影響を避けることはできないでしょう。人材の移動がより活発になり、様々な国の人たちと仕事をしていくことが普通になっていくかもしれません。企業経営に関する知識を身につけることはもちろんのこと、それをベースにグローバルに活躍するための能力を養っていく必要があるでしょう。当コースで学ぶ国際経営の理論と皆

さんの実務経験が融合されることで、グローバル・マネージャーとしての能力を養っていただけるのではないのでしょうか。

大学院教育は、それがアカデミック志向なものであれビジネス志向のものであれ、学部教育のような「教員＝教える人、学生＝教えられる人」といった一方通行の関係であってはならないと思います。ビジネススクールの教育のあり方は、当然これとは異なります。当コースで実践されている大学院教育を、「自動車の開発技術者とテストドライバーの関係性」に例えて理解すると分かりやすいでしょう。抽象的な理論に詳しい「開発技術者」つまり当コースという教授陣と、実際の現場で五感を研ぎ澄ませながら問題を解決していく「ドライバー」つまり社会人院生の双方向のコミュニケーションが、理論と実務経験の融合をより高次のものへと高めていくでしょう。



●教員紹介および担当科目 (2017年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
安藤 直紀 教授	海外子会社の経営戦略、新興経済での経営戦略	国際経営特論、経営学演習
高橋 理香 教授	貿易政策の効果に関する理論および実証研究	今年度は特定の科目は担当しません
藤澤 利治 教授	EU 経済統合に関する研究、統一ドイツ経済の分析	国際経営演習
洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資	国際経営論
横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究	国際金融論
李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、新興国物流企業の経営戦略	ワークショップ、国際経営演習、経営戦略特論、経営学演習

●MBA修了生・現役生の声

マネジメント層を目指す若い方に“うってつけ”なビジネススクールです。

大学卒業後、日系製薬会社の営業担当(MR)として社会人のキャリアをスタートしました。その後、一般用医薬品・健康食品部門の海外事業担当へ異動になった際、業務に対し自身の能力不足を痛感し、基礎から実践に通用する知識と思考を学ぶべくHBSの門を叩きました。

HBSの講義は少数精鋭のため、ディスカッションが非常に活発になります。生徒一人一人の役割が大きく、中身の濃い講義です。そのため、参加に必要な事前準備が求められ、日々学習することが求められます。その中で学んだ事を即座に実務に活かすことが出来るため、学習意欲や知識習得の効率が必然的に高くなります。日々の業務との両立は入学当初は大変ですが、限られた時間を効率良くマネジメントする能力が磨かれます。業務内容や業務時間を見直す良い機会にもなり、業務の取捨選択や同僚への振り分けの術も身に付けることができます。

卒業後、キャリアアップのため外資系医療機器メーカーへ転職しました。HBS入

南 拓郎 (2014年3月修了)
日本メトロニック株式会社勤務



学当初はスキルアップのために通い始めましたが、様々な年齢・バックグラウンドの生徒とともに学ぶ事により、自身の社会人としてのキャリアについて考えるようになりました。また、MBAを取得することで、産業界や職種を問わず、様々な雇用機会を得られることも転職した大きな理由です。

MBAを取得する意義は、将来起業する、または企業の中核を担う人材を目指し、ビジネスに必要な人脈獲得、また知識と思考等を鍛えるためだと考えています。HBSは生徒も多く、多様な業種、バックグラウンドの方が学んでいるため多くの刺激を得ることが出来ます。また、講師陣から厳しくも温かい指導を受けられるため、これからマネジメント層を目指す若い世代にとって“うってつけ”のビジネススクールです。学費に掛かった費用は、卒業後直ちに回収できるだけの機会を得られると思いますので、有益な自己投資としてHBSに通うことを是非お勧めします。



小川 憲彦 教授

人材と組織の課題について考える人のために

人材と組織のマネジメントは、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどと並び、欧米をはじめとするビジネススクール(MBA)のカリキュラムの柱です。人材と組織のマネジメントに関わる実務上の課題の多くは、組織のふるまいと個人の意識や行動とのあいだの緊張

関係のなかにあります。わたしたちの人材・組織マネジメントコースは、そうした課題の解決策を、事実にもとづく議論と理論的な考察をつうじて見出そうとする人のためのコースでありたいと考えています。人事担当者だけでなく、職場マネージャーや第一線で働く社会人として、人材と組織の課題について考える人たちが、わたしたちのコースで学んでいます。

人材・組織マネジメントコースでは、人材(Human Resources)と組織(Organization)の分野の研究者を専任教員として多く配しています。教員の学問的バックグラウンドは、経営学、経済学、社会学、心理学と様々です。このことは、皆さんが、幅広い視点から人材と組織の管理について考える理論的な知識や思考を学びとるのに役立つはずですが、実務経験をもつ教員も多く、みな実証的な調査研究をつうじて実務に関わっています。

本コースのもうひとつの特徴は、丹念な修士論文指導にあります。個別に論文指導を行うだけでなく、コースの教員全員が協力して、論文構想

発表会や論文中間発表会、最終的な論文指導までを行い、多様な見地から丹念な指導にあたっています。毎年、コースの社会人大学院生の皆さんが、修士論文の執筆に真剣に向き合い、多数の優れた論文が生まれています。その成果の一部は『プロフェッショナルの人材開発』『女性の人材開発』『雇用形態の多様化と人材開発』(キャリア研究選書、ナカニシヤ出版)として出版されています。

もちろん、本コースでは、教員が一方的に教えるというわけではありません。皆さんが大学院で学び、修士論文を作成するプロセスは、自ら実践的な研究課題をみつめるところから始まります。研究課題に照らし、過去の研究の蓄積を吟味し、情報収集と理論的考察を行い、具体的でかつ普遍性のある答えを見出していきます。わたしたち教員は、それをきめ細かくサポートしていきます。このような本コースでの経験は、皆さんの組織における実践とキャリアにきっと活かせるはずです。



●教員紹介および担当科目 (2017年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織文化、採用活動	キャリアマネジメント論、人材・組織マネジメント演習
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析・国際比較	人材・組織マネジメント演習
岸 真理子 教授	組織と情報、組織コミュニケーション	今年度は特定の科目は担当しません
佐野 哲 教授	労働力需給調整システム、社会政策	人的資源管理特論、人材・組織マネジメント演習
佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用ポートフォリオ	今年度は特定の科目は担当しません
長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー	ワークショップ、人材・組織マネジメント演習
西川真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活	組織行動論、人材・組織マネジメント演習

●MBA修了生・現役生の声

専門性を高め、視野を広げる環境

私は顧客企業の課題に応じた研修カリキュラムを企画し、提供する業務に就いていました。研修だけで組織を改善していくことへのジレンマがあり、人事の諸制度までを包括的に考えられるようになりたいと、専門知識を求めて大学院へ進学を決めました。

HBSを選んだのは、人事や組織に関する専門領域を網羅的に学べる専門コースと、それ以外の分野についても学べる環境が整っていたからです。入学後は人材・組織マネジメントコースに所属しながら、他コースの授業を履修することで、視野を広げて自身の業務を捉え直すことができたと感じています。企業の中にはなかなか出会うことができない多種多様な考え方や向き合う場は、新たな知見を得るよい機会となりました。自身の専門分野をしっかりと学びつつ、他分野との視点の違いを得る機会が多いのも、HBSの大きな醍醐味であると思います。

神谷 俊 (2014年3月修了)
株式会社エスノグラファー代表取締役



一方で会社と大学院、2つの役割を同時にこなしていくことは大変な部分もあります。多忙な業務に学習時間をとられてしまうことは多々ありました。両立させることは大変でしたが、学習時間を確保するために仕事の効率を考えることは自身を前向きにするものであり、双方のモチベーション向上にも繋がっていたと思います。また大学院で学ぶ内容と業務で実践する内容に関連があったため、忙しいながらもよい循環を創り上げることができ有意義な時間を過ごすことができました。

現在では、HBSで学んだ専門知識を活用し人事コンサルティング事業を社内で立ち上げ、顧客企業の課題に深く根ざしながら組織の改善に取り組んでいます。視野の広がり、専門知識の修得、異なる視点をもった人との対話等、HBSで学んだ多くの要素が今の業務に活用できていると感じています。



横山 斉理 教授

マーケティングを深く学びたい人のために

マーケティングコースでは、実務での豊かな経験を持ちながらも、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目

目で理論を学習し、「マーケティング・リサーチ論」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、研究課題を磨いていきます。このことが、今までにない面白い研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん

自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらには、2年次の先輩や卒業生も多くのアドバイスをしてくれます。これらの体制が円滑に進むように、1年次のオリエンテーション後に、先輩や卒業生が歓迎会をすることが恒例となっています。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かけがえのない友人づくりにもつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。

皆さんの新しい研究課題に出合えることは、我々教員にとってもとても楽しみです。皆さんと一緒に、マーケティングの新しい研究ができることを期待しています。



●教員紹介および担当科目(2017年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
木村 純子 教授	農産物マーケティング、地理的表示保護制度、地域活性化	今年度は特定の科目は担当しません
小林 健一 教授	広告論、コーポレートコミュニケーション論、CRM	ワークショップ
竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動	マーケティング論、マーケティング演習
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略	製品開発論
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント	消費者行動論、経営学演習、マーケティング演習
西川 英彦 教授	インターネット・マーケティング、ユーザー・イノベーション	マーケティング・リサーチ論、マーケティング演習、経営学演習
横山 斉理 教授	日本型流通システム、商業まちづくり	マーケティング特論
長谷川翔平 准教授	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイエンス	マーケティング演習

●MBA修了生・現役生の声

独学の壁を超える、密度の濃い日々

小南 陽子 (2013年3月修了)
証券会社勤務



私は法政大学国際文化学部を卒業した後、証券会社に就職し、営業企画に携わっています。業務上の必要があり、統計学やマーケティングを独学していましたが、独学には限界があると思うようになりました。そこで、実務にも精通した教授陣からマーケティングを体系的に学び、他の学生との議論を通じてさらに理解を深めたいと考えるに至りました。

他校に比べ、HBSは学費が驚くほど良心的ですので、経済的な不安はありませんでした。ただ、社会人であるため、「働きながら2年間も通えるのか」などの不安がありました。そのような折にHBS卒業生に相談したところ、「HBSなら単に講義を受けるだけでなく、修士論文という形で自分の考えを世に問うことができるから、本当の意味での知恵が身につく。さらに苦楽を共にする仲間もできるし、現役生と卒業生のつながりも強い。大変だけれど、HBSにはそれだけの価値がある」と、背中を押してもらいました。

HBSには修士論文のような高度にアカデミックな面がある一方で、フィールドワークで実際に自分の目で見て考えるといった、より実地に近い授業もあります。ワークショップでは、多様な企業・業界の方から普段聞くことのできないようなお話を伺う機会も得られます。また、予習の時点では自分の考えに落とし穴があることに気づかないものですが、授業で先生やクラスメイトと議論をしてみると、いかに自分の考えが浅かったのかを思い知らされることもあります。全て独学では成し得なかったことです。

私はHBSに入学して、「人生が2倍になった」と感じました。それは2人分の人生を生きているかのような、密度の濃い日々を過ごすことができたからです。皆様もぜひ、HBSで学んでみませんか。

アットホームな雰囲気とマンツーマンの研究指導体制



菊谷 正人 教授

HBSアカウントティング・ファイナンスコースの特徴は、多様な研究領域の教授陣が揃っている点です。「会計とファイナンス」という大きな枠組みのなかに、財務会計論、管理会計論、税務会計論、経営分析、基礎・実証ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、国際会計論、租税法といった多様な専門科目を幅広く設置しています。大学院での講義はアットホームな雰囲気のなかで進められ、質疑応答などが非常にきめ細やかに行われます。大学院では、理論的な説明ばかりでなく、ワークショップの授業では他の企業の実務などに触れられる機会も提供しています。

2年次に行われる修士論文の研究では、それぞれの社会人院生が、自らの研究テーマに最も近い教員のもとでマンツーマンの指導により論文を執筆します。さらに、関連した研究領域の教員、また研究方法でアドバイスを与えることのできる教員が必要に応じて入れ替わり立ち替わりサポートを行います。

大学院での学習において社会人院生の方に期待したいのは、大学院で学習する理論と皆さんの実社会での経験を常に比較して考えていただきたいということです。実社会の変化のスピードは非常に速いので、今では社会人院生の方から聞く現場の情報がとても新鮮に感じられます。会

計やファイナンスの研究テーマは皆さんの日常業務のなかに潜んでいることも多く、実務の現場を知っている社会人院生は大きなアドバンテージを持っているはずで

その一方で、社会人院生の方に学習を進める上で気をつけていただきたいこともあります。理論を学んでいる時に、自社の状況だけを考え、「実際の現場ではそのようなことはありえない」という考えを持ってしまうことです。理論は多くの企業の実務から共通部分を抽出し、またいくつかの基本的な仮定に基づいて組み立てられる性格を持っています。理論でいわれていることと実務を常に比較して考えていくことで、理論のいっそう深い理解が可能となることもあります。また、理論と実務とのギャップの認識をきっかけとして、思わぬ発見があり、そこから新しい理論が生まれる可能性もあります。そういう一連の過程を皆さんと一緒に経験しながら、現実にある様々な問題を深く掘り下げて考えていくことが、社会人大学院での研究の醍醐味だと思っています。

皆さん、アカウントティング・ファイナンスコースで一緒に研究しましょう！



●教員紹介および担当科目 (2017年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
大下 勇二 教授	フランス会計制度研究、税務会計における会計基準の利用問題	今年度は特定の科目は担当しません
神谷 健司 教授	中小企業の会計基準のあり方、会計教育プログラムの研究	今年度は特定の科目は担当しません
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究	財務会計論
菊谷 正人 教授	財務会計論、国際会計論、税務会計、租税法	国際会計論、アカウントティング・ファイナンス演習、租税法
岸本 直樹 教授	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還	コーポレート・ファイナンス
金 瑠晋 教授	実証ファイナンス、企業の財務意思決定	実証ファイナンス入門
坂上 学 教授	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究	今年度は特定の科目は担当しません
高橋 美穂子 教授	会計数値に基づく企業価値評価	経営分析
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算	会計学基礎
福田 淳児 教授	MCSの設計と組織学習、スタートアップ企業におけるMCSの発展	今年度は特定の科目は担当しません
福多 裕志 教授	日米企業の財務位相分析	今年度は特定の科目は担当しません
山崎 輝 教授	金融工学、数理ファイナンス	基礎ファイナンス

●MBA修了生・現役生の声

刺激的なHBS

教育の現場で充実した日々を送っていた私は、その一方で会計学を学びたいという思いを抱いていました。私が最も関心をもっているのは、地方自治体が行う会計、医療法人会計、学校法人会計等、いわゆる公会計といわれる分野です。公会計を理解するためには、まず企業会計の理解が必要不可欠であると考え、HBSへの入学を決意しました。

入学後は驚きと感動の連続でした。HBS教育には3本柱である、講義・ワークショップ・論文作成があります。講義は、院生による発表内容について理論とケースを交えながら受講者全員で討論することにより、問題解決能力を高めていくものでした。これはビジネススクールの核心部分であり、刺激的なものでした。また、「政策法務論」・「地方財政学」等、私が興味を持っている講義を研究科・専攻・コースを越えて履修が可能であることも大きな魅力でした。ワークショップでは、第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義と、そ

高江洲 司 (2014年3月修了)
学校教員



の講義後のディスカッションがありました。ゲストが大学教員の場合、高度な会計理論の講義があり、会計学の学問としての深さに感心しました。またゲストが実務家の場合、企業経営の真髓に迫る内容の時には感動さえありました。

HBSは修了要件として修士論文を要求しています。ビジネスの場でご活躍されている人にとって自分の考えを深く検討し、さらに論文としてまとめる機会は皆無に等しいと思います。自ら問題点を発見し、その問題に対する解決方法を深く追求し、最終的に論文という形で表現するということは、アカデミズムの世界に触れる最良の機会であり、最も意味があることと思われ

仕事の後、疲れきった状態で講義に出席したことも度々ありました。しかし、HBSは刺激的で最高の環境を提供してくれます。私は先生方や院生達と共に充実した素晴らしい時間を過ごせたことに感謝しています。

法政ビジネススクール コース共通科目

各コースが提供する高度な専門教育の理解と実践への応用のためには、ビジネス全般に関する基礎を理解することも重要です。

そこで、法政ビジネススクールでは、「コース共通科目」として、経営学、

会計学、経済学、統計学、情報科学に関する基礎科目や、産業、日本経済等に関する科目を設置しています。

●教員紹介および担当科目 (2017年度)

教員名	研究テーマ	担当科目
福島 英史 教授	企業戦略と技術革新に関する研究	経営学基礎
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算	会計学基礎
児玉 靖司 教授	ディープラーニングを利用した学習解析	情報学特論

法政大学大学院経営学研究科経営学専攻について

経営学研究科
経営学専攻

- 昼間コース
 - 修士課程 (授与学位: 修士(経営学))
 - 博士後期課程 (授与学位: 博士(経営学))
- 夜間コース
 - 修士課程 (授与学位: 修士(経営学))
 - 博士後期課程 (授与学位: 博士(経営学))

<昼間コースのご紹介>
経営学専攻には、法政ビジネススクール(夜間コース)のほか、研究者養成を主な目的とした昼間コースもあります。昼間コースについて詳しくは、『法政大学大学院入学案内2018』の紹介(経営学専攻のページ)や、法政大学大学院経営学研究科のホームページ (<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/keiei/index.html>) をご覧ください。

法政ビジネススクール

<博士後期課程夜間コースのご紹介>
法政ビジネススクール(経営学専攻夜間コース)には、MBA(経営学修士号)を取得できる修士課程のほか、同じく働きながら博士の学位を取得することが可能な「博士後期課程夜間コース」があります。博士後期課程では、博士論文の提出に向けて段階をふんで進んでいくステップ制を取り入れ、指導教員・副指導教員による個別指導と経営学専攻としての教育・学習とを組み合わせ、博士学位取得をサポートしています。

学費(年額)のご案内 <small>*本学出身者は入学金が免除となります。</small>	修士課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 530,000 円	教育充実費 60,000 円
	博士後期課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 400,000 円	教育充実費 60,000 円

修士課程(夜間)は、「教育訓練給付制度一般教育訓練講座」の指定を受けています。この制度は、修了後本人がハローワークへ申請することで、上限額10万円の教育訓練給付金が支給されるものです。

■法政大学大学院へのアクセス

- 東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅下車徒歩2分
- JR線、都営新宿線・大江戸線、東京メトロ東西線
市ヶ谷または飯田橋駅下車徒歩10分



■法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

法政大学大学院事務部(法政大学大学院棟1階)

〒162-0843 東京都新宿区市ヶ谷町2-15-2 TEL.03-5228-0551~0552 FAX.03-5228-0555 E-mail : i.hgs@ml.hosei.ac.jp

法政ビジネススクールホームページ <http://hbs.ws.hosei.ac.jp>